くりはら秋の芸術鑑賞

10月4日から28日までの間、栗原市立図書館で、築館地区のあすなろ会、若柳地区の秋桜会、栗駒地区のひるこの会の3団体による絵手紙展が開催されました。

展示された作品の中からごく一部を、皆さんの絵手紙に関するエピソードと共に紹介します。

年代を超えて

放課後児童クラブに通う子どもたちに、絵手紙を教える機会があり、子どもたちの表現力の豊かさに驚きました。

絵手紙と聞くと、高齢者の趣味という印象を受けるかもしれませんが、若い人たちにも楽しんでもらいたいです。

発見の毎日

絵手紙を書く前は、花や野菜を何気なく見ているだけでしたが、書き始めてからは、まずはじっくり眺めてみることを意識しています。

花びらの枚数や、野菜ごとに違う色合いなど、絵手紙を始めてから気付いたことがたくさんあり、発見の毎日です。

季節や行事の節目に

暑中見舞いや年賀状、バースデーカードとして、絵手紙を書いて送っています。

絵や言葉が印刷された、はがきやカードもありますが、自分や相手への思いを込めながら書く絵手紙には、それらとはまた違う良さがあります。

離れていてもつながる思い

書いた絵手紙は、孫に送っています。

成長するにつれて、連絡を取ったり、直接会う機会は減ってしまいますが、孫の家に遊びに行ったとき、食卓や部屋に絵手紙が飾ってあるのを見ると、とてもうれしく、心が温かくなります。

思いを運ぶ絵手紙

何気ない風景やものに、短い言葉を添えて書かれる絵手紙は、素朴さの中に書いた人の思いがたくさん詰まっています。時には、読んだ人の想像力を広げ、書いている人や書かれているものに、思いをはせるきっかけにもなります。

電子メールや電話が普及した今の時代は、手紙を書く機会が減っています。また、スマホなどで手軽に写真を撮ることができるため、絵を描いて残すという人も少ないのではないでしょうか。

心を込めた文字や絵には、書いた人の個性が表れます。書いた人の思いを読んだ人が受け取ったとき、お互いの大切な思い出が鮮明によみがえり、温かな気持ちになることでしょう。

師走の足音が近づくこの季節、今年一年お世話になった人や大切な人に、いつもの年賀状とは一味違う、絵手紙を送ってみませんか。